



角力  
仇討  
道之奇生

十一  
十二

~ 13  
3335  
6



門 へ 13  
3335  
卷 6

韻物道之奇生卷之拾之

目錄



大正十年八月廿九日  
本大學出版部

一 綾川桂川と如由之事

一 桂川月忌本御事之始末

海曲道之奇生卷之拾之

續川控門と物商車

あやういりうらうら

板も源氏心と續川と車

河も源氏心と續川と車

次も源氏心と續川と車

海も源氏心と續川と車

西春

續川控門と物商車

續川控門と物商車

續川控門と物商車





天劍の谷はゆる大い  
根んしと猫の脊格推  
月かなづとちりま  
りみと燃と結しん  
にうらたのた  
候し去跡まゆ  
結しんく日見  
事じとたり念  
にうらたのた  
候し去跡まゆ  
結しんく日見  
事じとたり念

知事とる  
くやとる  
わぐ  
わや  
く  
の  
の







ふらふらと下座へあがり  
くわらふ念白續詞の  
口づきのていそとあやう  
父の焼くと頼りておる  
は、ゆりていそとあやう  
の傳抄へあはれとあやう  
しとせんていそとあやう  
えせ二千五百の精をあやう

しとせんていそとあやう  
あやうの精をあやう  
すくわしとあやう  
ゆふあやうとあやう  
あやうとあやう  
あやうとあやう  
あやうとあやう  
あやうとあやう  
あやうとあやう  
あやうとあやう

あまの海女もまはれさうし  
海とちがひの磯ふ海しの  
おのこ年十石あつどのまも草がまの  
うまあつて悦ひたけらるる  
海女は海女のあつて入蔵し  
あつてあつてあつてあつてあつて  
あつてあつてあつてあつてあつて  
らんや昔のあつてあつてあつて

あまの海女もまはれさうし  
海とちがひの磯ふ海しの  
おのこ年十石あつどのまも草がまの  
うまあつて悦ひたけらるる  
海女は海女のあつて入蔵し  
あつてあつてあつてあつてあつて  
あつてあつてあつてあつてあつて  
らんや昔のあつてあつてあつて

桂川目も名知るるまは事

取も桂川と云ふ父の地を  
頼せんといふ所の次中と深  
くその地  
よきこと日よしの事よき田  
所よき遠方よ 目も名  
知るる

取も桂川と云ふ父の地を  
頼せんといふ所の次中と深  
くその地  
よきこと日よしの事よき田  
所よき遠方よ 目も名  
知るる

とてはしめて海女も  
今更何れも海女も  
ゆきとねども海女も  
舟のふかき海女も  
うけとねども海女も  
海女のふかき海女も  
とてはしめて海女も  
とてはしめて海女も

昨乞 海女とてはしめて  
七年二月廿八日の事  
今更何れも海女も  
ゆきとねども海女も  
舟のふかき海女も  
うけとねども海女も  
海女のふかき海女も  
とてはしめて海女も

敬屋のくまの 始はく 澄く  
いし 娘のくまを 見くまのま  
中り 岩 桂川くまのまのまのま  
今日より 平一 日月くまのまのま  
苗 新のくまのまのまのまのま  
ゆし 新のくまのまのまのまのま  
神 新のくまのまのまのまのま  
大 新のくまのまのまのまのま

敬屋のくまの 始はく 澄く  
いし 娘のくまを 見くまのま  
中り 岩 桂川くまのまのまのま  
今日より 平一 日月くまのまのま  
苗 新のくまのまのまのまのま  
ゆし 新のくまのまのまのまのま  
神 新のくまのまのまのまのま  
大 新のくまのまのまのまのま



てんを中ふ海ののこりて  
一ののこりてくくくく  
しんしんしんしんしんしん  
しんしんしんしんしんしん  
しんしんしんしんしんしん  
しんしんしんしんしんしん  
しんしんしんしんしんしん  
しんしんしんしんしんしん  
しんしんしんしんしんしん  
しんしんしんしんしんしん

ちんしんしんしんしんしん  
しんしんしんしんしんしん  
しんしんしんしんしんしん  
しんしんしんしんしんしん  
しんしんしんしんしんしん  
しんしんしんしんしんしん  
しんしんしんしんしんしん  
しんしんしんしんしんしん  
しんしんしんしんしんしん  
しんしんしんしんしんしん

角付の道に奇生を指す

欽定四庫全書  
欽定四庫全書

目錄

一 不知音奇瑞之事

一 日所刀石之事

一 續州和南之事



蒲姑道々奇生巻の指針

石知その奇瑞事

期々 権列重治而既之結  
知の目しかりまきりれども  
中 今自ら我命の不

目録

1. 権列重治而既之結

2. 知の目しかりまきりれども

3. 中 今自ら我命の不

ちんぢもやし言ふもびびく  
 りんぢもやし言ふもびびく  
 しくぬると言ふのもつえろ  
 ときらるん結然の事をいふ  
 感念の事言ふ何ぞ  
 多むたりと一か言ふ事  
 くりかへんりつひらの事  
 感念の事言ふ何ぞ

おやらるん移しめまはさく  
 りんぢもやし言ふもびびく  
 しくぬると言ふのもつえろ  
 ときらるん結然の事をいふ

石はしりきり  
 小三之口  
 揚子



たゞあつてゐるまゝに  
うらやましく思ふ  
自害せんしと  
時ふたふた  
人もたふたふた  
池本ありと  
ん先澤  
ん先澤  
ん先澤

所々  
しつと  
と  
年  
株  
印  
日

減ふ去る石と物  
とまはる石の石  
けりしり煙々ねとま  
うらふ大しよとま  
そと年くまを和る我  
如くし初然と何の

減る去る石と物  
とまはる石の石  
けりしり煙々ねとま  
うらふ大しよとま  
そと年くまを和る我  
如くし初然と何の



とくし〜人扱扱〜  
行よ先し〜  
今白浪白浪〜  
と〜  
え〜  
も海〜  
波澄〜

回折力石の事

并續河知函は申は事

相〜  
〜  
〜  
〜  
〜  
〜  
〜







しゝく石のしらたひにけり  
あてははるるをくちししと  
しるがけりしと月しりき  
し揚てん持出た地  
ししおれとて遊る  
し法んはかんてり  
感るる  
傳ふらくくけりとの石

其月方はせらふ

大 五拾貫目

中 五拾貫目

小 五拾貫目

今石目小のり  
相 澤中しりき  
下 澤中しりき  
下 澤中しりき





物きふふゆりの着の  
若くともあつた石を波ふり量に  
得るは金に流のり  
しき揚  
港に部ののりくたつて  
大聖成然せん事能合し  
しりし事とて結川をくたひ  
よはるまびゆりしるを

ト名をし事たるまこと物  
よゆりしきまんと  
重なる中とて対  
時ふ重なる中とて対  
かの極はひはるをけち  
し知るし事とて結川をくたひ  
しりし事とて結川をくたひ  
八月のいしはるをけち

とや海にぞも我の  
口重のちと見ん  
ぬふ香はくん  
何れも香盤と  
去るふ香の  
みく重所  
重命去と悟  
行はるはと

えく綾川奇言の  
ゆふ其後  
と双去船はの  
あや  
ふ  
津川基盤双去船  
と  
のそ行はるは



